

日本学術会議の在り方に関する政策討議（第8回）
（総合科学技術・イノベーション会議有識者議員懇談会）

議事概要

- 日 時 令和3年12月23日（木）9：46～11：36
- 場 所 中央合同庁舎第8号館 6階623会議室
- 出席者 上山議員、梶原議員、小谷議員（Web）、篠原議員、
橋本議員（Web）、藤井議員（Web）
（事務局）
大塚内閣府審議官、米田統括官、松尾事務局長、井上事務局長補、
阿蘇審議官、覺道審議官、合田審議官、高原審議官、橋爪参事官、
（内閣府大臣官房総合政策推進室）
笹川室長、黒瀬副室長、児玉参事官
- 議題 日本学術会議の在り方に関する政策討議（第8回）
・日本学術会議の在り方についての自由討議〔非公開議題〕
- 議事概要

○上山議員 定刻になりましたので、次の議題に入りたいと思います。

議題は、第8回の日本学術会議の在り方に関する政策討議でございます。

本日は、内閣府から大臣官房総合政策推進室に参加を頂いています。小林大臣は公務の都合により欠席と聞いています。

それでは議事に入ります。

なお、会議の記録及び会議の公開、非公開については、第1回の政策討議で決めたとおりといたします。また、前回の政策討議の議事概要は有識者議員の皆様にご覧いただき、現在御確認いただいております。発言の皆様のご確認が終わり次第公表といたします。

本日の議題は、日本学術会議の在り方についての自由討議です。率直な意見交換の確保のため、議事は非公開とさせていただきます。CSTI有識者議員以外の同席者、随行者も退席をお願いいたします。

プレスの皆さんも御退出を願います。

C S T I 有識者議員同士のディスカッション部分の議事概要の扱いに倣い、後日、発言者名を伏せたものを公表させていただきたいと存じます。

【プレス・同席者・随行者 退室】

○ それでは、意見交換に資するため、これまでの政策討議の意見交換をまとめた資料1、「『日本学術会議の在り方に関する政策討議』における主な意見等」、資料2、「当面の論点」を配布させていただいております。

さて、5月から7回、政策討議を開催し、日本学術会議の在り方に関するこれまでの取りまとめのヒアリングなども行い、方向性がかなり見えてきたように思います。第1回政策討議において、報告書の取りまとめは必ずしも前提とはしないとしましたが、このような状況を踏まえまして、本政策討議としてこれまでの政策討議の例に倣い、C S T I 有識者議員連名の取りまとめもあり得るということを念頭に置いて議論を深めていきたいと考えております。

また同じく第1回政策討議におきまして、C S T I 有識者議員と日本学術会議会長という二つの立場をお持ちの梶田議員につきましては、議論の内容によっては御遠慮いただくこともあり得るとしてきたところです。

今回、正に日本学術会議の在り方に関する取りまとめもあり得るということを念頭に置いた議論を行うことから、梶田会長以外のC S T I 有識者議員で行いたいと考えております。

よろしいでしょうか。

それでは、そういうふうにさせていただきます。

進行に入ります。

まず資料2、当面の論点についてその概要を事務局から説明させていただきます。

○ それでは簡潔に御説明させていただきます。

これまでの例に倣いまして前回までの政策討議でのC S T I 有識者議員の先生方、政策討議にお招きした先生方との御議論、提出された資料を集約整理いたしましたものを当面の論点として配布しております。

簡潔に申し上げます。1ページです。

まず、そもそもなぜ日本学術会議の改革が必要であるのか、また本政策討議における議論の視点について、これまでの議論、資料を踏まえ整理しました。

頭のところですけれども、欧米先進諸国等における科学的助言という観点からのアカデミーの役割、学術会議の趣旨について簡単に触れております。

その下真ん中あたりですけれども、科学技術をめぐるグローバルな環境の変化を踏まえ、ナショナルアカデミーに求められる役割が進化をしているということを書いております。

その下ですけれども、日本においても、御案内のとおり、随時、学術会議の改革などなされてきたわけですけれども、どちらかというとも会員の選考方法や会議の構成を改正するものであって、果たすべき役割機能からの改革が必ずしもなされてこなかったのではないかとということを書いております。

その上で2ページを御覧ください。

一番上のポツのところですけれども、C S T I と学術会議が科学技術・イノベーションにおける車の両輪であるということ踏まえて、学術会議設置の目的趣旨、改善強化すべき点、リソースの制約や組織形態による支障の有無について議論、検討を行っているとしております。

その下のところからです。

これまでの議論を踏まえて、論点、大きく三つに整理しています。

一つ目、2ページ、学術会議の科学的助言機能、二つ目、5ページ、科学者間のネットワーク構築と会員選考等、三つ目、6ページ、学術会議の財務及び組織形態等です。

先に形式的なことを申し上げますと、下線をいろいろ引きますけれども、これは当面の論点としてお示ししている中で強調すべきものではないかということで引いているところです。

では順次説明します。

まず、2ページ、学術会議の科学的助言機能です。

昨今の科学技術をめぐるグローバルな環境を踏まえた科学的助言の必要性、学術会議の状況について2ページに書いているところです。

その上で、3ページです。

4月22日報告を踏まえた、学術会議自身の取組状況に触れた上で、真ん中よりちょっと下ですけれども、下線のあるところのポツ、「アカデミーに求められる役割・機能は、科学技術の発展や経済社会の変化に伴い、中長期的、俯瞰的分野横断的な課題に対する科学的助言へ移行している」、これについて学術会議も同様の役割を果たすことに強い期待が寄せられたとしています。

その下のポツ、その際、課題設定に当たってステークホルダーと十分コミュニケーションを取る必要があるということ。

それから4ページです。

提言を出した後、関係者と協働して実現に向けた働きかけ、フォローアップが必要だとして
います。

さらに、このような仕組み、考え方に加え、「一連のパッケージを一定の期間で学術会議に
行っていただき、状況の報告を受けつつ、その上で、学術会議の現状のリソースや体制に課題
がないかを議論の俎上に上げることも必要ではないかという提言がなされた」としています。

その下のところ、C S T I有識者議員の御指摘や御意見、あるいはその学術会議の御指摘、
御意見も記載していますけれども、時間の関係もあり、省略させていただきます。

5ページ、科学者間のネットワークと会員選考等についてです。

中長期的、俯瞰的分野横断的な課題検討のためには、幅広い分野からバランスをとって専門
家を招へいする必要があること。それから、下線の部分ですけれども、グローバル課題には、
諸外国のアカデミーと協働して、実質的な共同作業、共同研究を行いながら提言発出を担わな
なければならないだろう、そのためには国際的な連携も必要だというふうにしています。

その後、学術会議の改革の方針やC S T I有識者議員の皆様の御指摘も書いた後ですけれど
も、6ページの真ん中あたり、下線を引いたところ。「自らの専門性を背景としつつも、
中長期的、俯瞰的分野横断的な視点から活動できるような科学者から、学際分野・新分野も含
めてバランスよく会員が選考されることはもちろん、科学者間ネットワークを活用し、日本学
術会議内外の専門家が課題に応じて参画するような柔軟、流動的な仕組みを構築することが必
要」としています。併せて、グローバル課題に取り組むためにも外国人の活用が求められてい
る、としています。

これを支える方のところですが、1個下のポツ、「調査分析や課題設定、提言等の作
成過程には産学官の幅広い人材、学位保持者からなる強力な事務局体制」が必要であるとして
いるところ。

それから、6ページ、日本学術会議の財務及び組織形態についてです。

6ページ、一つ目のポツですが、やはりこういった骨太な科学的助言を効果的、効率的
に行うためには、事務局機能というのがしっかりと付与されるべきであるし、その観点から、
組織体制が適切かどうかについて検討する必要があるのではないかという投げかけを行って
おきます。

学術会議からの説明ですとか、これまでの改革について触れた上で、7ページです。

真ん中より下のところですが、科学的助言機能の充実化を考えたときに、いずれにせ

よ、所要の事務局機能、財政基盤等の再構築が不可欠である。

さらに、学会が国民から理解、信頼される組織であるためには、必要な改革が一定の時間軸の下で迅速に活動に反映されていくことも必要としています。

さらに、仮に学会の現状のリソースや体制で十分な改革を行い得ないとすれば、組織体制の見直しも視野に入れたより抜本的・構造的な改革が必要という意見があったとしています。

その下、C S T I 有識者議員の皆様方からの御指摘、学会の意見等も示していますが、説明は省略しますが、一つだけ、7ページの、「～意見もあった。」の下線部分の下、「国からの競争的資金や民間からの寄附」と書いているところの「競争的資金」ですけれども、これはいわゆるグラントのことを意味しています。それ以上の意味は特に含んでおりませんが、表現振りはまた考えたいと思います。

最後ですけれども、8ページです。

一定の期間での提言等の社会に向けての発出、その後の働きかけ等といった一連のパッケージについて、進捗状況を基に意見交換することを通じて、学会のこの新たな仕組みに基づく改革が現在のリソースの下で実現可能かを確認するとまとめているところです。

雑駁でしたが説明は以上です。

○ ありがとうございます。

どなたでも結構ですが、どうぞ。

○ よくまとめていただいていると思うのですが、一つだけ気になる点があります。前回の討議でも何となく議論が錯綜していた部分があります。「ある一定間隔で報告すべきだ」という点に関して、カーボンニュートラル等の具体的な取組内容について、一定間隔に報告すべきかどうか、報告できるかどうかという議論と、執行部がこれまで説明してきた組織改革が順調に進んでいるのかどうかを一定間隔で議論すべきだという、その二つの話が何となくごちゃごちゃになっていたと思います。

今回この資料では、カーボンニュートラルが一例で書かれていますが、そういう大きな提言内容について、定期的に議論しようとなっていて、それ自体は、私も重要だと思います。しかし、カーボンニュートラルのような大きな話になると、定期的と言っても、短い間隔で議論するというのは無理で、多分半年とか1年ぐらいのスパンになっていくと思うのです。

私は提言内容に加えて、学会執行部が取り組まれようとしている組織としての改革、例えば事務局機能の強化でも何でもいいのですけれども、組織の改革についてどういうふうに取り組んでいるのか、それがどう進んでいるのかについて、定期的に議論することがあってもいい

いのではないかなと、そちらのほうがどちらかというところある程度短い間隔で議論ができるのではないかと考えています。

それ以外はちょっと表現的な問題なのでお任せしますが、今、御説明していただいた資料の2ページ目の上から2行目に「歴史的関係を鑑み」と書いてあるのですが、その前のところを読むとそれほど歴史的関係って書いてないのですよね。だから何かここだけ急に大上段だなというのがまずありました。

それから、ページ3、これは日本学術会議の文章かもしれませんが、ページ3のちょうど真ん中辺り、「以下単に「総会」という」ところの二つ下の行です。この「課題設定や科学的助言の作成過程に～」という文章、この部分が浮いていて、どう読んでいいのかわかりません。私に読解力の問題なのかもしれませんが、少し考えていただければと思います。

それともう一つは、5ページの上から7行目、8行目ぐらいで、「必ずしもその短期間での提言を求めなくてもいいのではないかな」という意見があった一方、日本学術会議からは「一方」と書いてありますが、普通、「一方」と書くときには、反対の意見を書くような感じかなと思ったのですが、ここは何か並んじやっているのですよね。

こういう言い方が適切かどうか分かりませんが、日本学術会議からの「困難ですよ」との意見に対して、それを認めるような意見もあったという書き方の方が何となく分かる気がします。ただ個人的にはさっきもお話ししたとおり、改革に関してはやはり一定期間ごとに議論すべきだという気持ちが強いので、改革の議論については、今どうお考えなのでしょう。

○ 改革の進捗状況について、C S T I 政策討議が意見を求められるか、報告を求められるかは、正に先生方に御判断いただくことかなと考えております。そこは両方あり得ると思います。

○ これまで何回か学術会議の皆さんと議論していて、一番痛感したことは、変わります、というふうにおっしゃってはいるのですが、自分たちの任期中という議論が多く、本当に変わるかが分からない。ですから、私はやっぱりカーボンニュートラルのような具体的な提言についての議論というものも必要だと思うのですが、それ以上に議論する場が何処かは別にしても、日本学術会議が宣言している改革というのがちゃんと順調に進んでいるのかどうかというのは、どこかで押さえる必要があるということをお個人的には思っています。

○ どうぞ。

○ 当面の論点でいきますと4ページの下半分のところですが、一連のパッケージを一定の期間で行っていただいて状況の報告を受けつつ、そのリソースや体制に課題がないかということをお議論の俎上に上げることも必要ではないかという提言がなされた、というところがポイント

だと思います。最後のカーボンニュートラルに関する活動については、これは飽くまで一例です。C S T I と日本学術会議は車の両輪として、C S T I 側としてはそういうことを提案しているのであって、その上でしっかり学術会議の皆さんに考えていただくというスタンス、あるいは論点という形のまとめであればよいのかなと考えています。これまでの議論でも、そういう形で何とかこういうことをやってみたらどうですか、ということを我々としては提案してきたという理解ですが、そのような形でまとめがされているというところだけ確認をさせていただきたく考えております。

○ はい、ほぼそういう意図でやっております。投げかけをするということと、それをどのよう
に受け止めるかは学術会議側の自己決定の話であるということですね。

○ どうぞ。

○ 他の方もおっしゃいましたが、一定期間で確認をしてはどうかということは提案であり、
8 ページのところ、カーボンニュートラルに関する活動を行うことが前提になってしまっ
ていいのかなと私も思いました。これまで議論をしていたのは、例えばカーボンニュートラルを
テーマとしてはということであり、政策提言、あるいは改革として、何をやるかというのは学
術会議に主体的に考えてもらうべきと思います。この書き方だと、カーボンニュートラルの一
点張りになっているので、そこが気になったところです。

それから、2 ページで政策提言の数について触れられ、「翻って」という表現がされていま
す。諸外国のアカデミーとの比較をする中で、諸外国のアカデミーの提言の数には言及してい
ない一方で、学術会議の提言の数が減っているということが例示的に挙げられています。諮
問・答申ということでは、政府側で諮問しなければ答申も出ないとも思いますし、提言数が減
っていて、フォローアップもないこと、その原因が政策立案者や産業界をはじめとするステ
ークホルダーとのコミュニケーション不足に起因していると思われるという表現で書かれてい
ることは気になりました。産業界からは分かっていないのですが、政策立案者側が諮問を出して
いたのかということをお慮せず、やや一方的な表現になっていないかなという印象です。

○ 分かりました。ありがとうございました。

○ ほかの御意見いかがでしょうか。

○ 一つ目は、科学的助言に関してです。政策への助言ということも大変必要なのですが、そ
もそも学術会議が国民からサポートされているということ、学術会議だけではなくて科学技術
全般についてもですけれども、国民の信頼を得る努力は非常に大切だと思います。今後の学術
会議の在り方として、国民の信頼や支持を得るためのアウトリーチ活動をより活発にするとい

うことを考えていただきたいです。

また、学術会議では若手アカデミーを形成していて、非常に良いことなので、学術的な助言のところに、若手アカデミーなど若手の意見を取り入れるということも書いた方がいいと思っています。

次に、これも書かれていますけれども、学術会議の重要な役割として、科学的助言に加えて、国際的な学術コミュニティでのプレゼンスや貢献ということがあります。そのこともしっかり明記していただきたいです。

それから、最後ですが、（先ほど議員の言われた）、5 ページ目の三つ目のポツの「これに對して」というところですが、これだと日本学術会議はこういうことだけやっていたらいいと言っているように聞こえなくはないのですが、日本学術会議でなくてはできないような提言をしっかりといただくことが重要であり、そういう場合には必ずしも短期で提言を出すことが難しいこともあるだろう。一方で、タイムリーに出さなくてはならない提言もあるということが主旨ですので、「日本学術会議でなくてはできないような活動を行うことが重要であり」、「短期間での提言が難しいものもあるのではないか」というように表現を変えていただければと存じます。

以上です。

○ ありがとうございます。今様々出てきた表現ぶりに関しましては、ほぼ同じような形で変えさせていただきたいと思います。

手が挙がりましたか、今。どうぞ。

○ ありがとうございます。

私から三つあります。一つは、先ほどのパッケージをやっていただいているところの、カーボンニュートラルに関するものが決め打ちになっているというのは気になっています。

また、当面の論点の最後のポツの終わりのところは「確認する」となっているのですが、確認する主語は誰なのでしょう。要するにいかにも C S T I が確認するというような形になってしまうと、トーンとしては強いかなと思います。相互で確認するとか、意見交換をするということを書いていますので、改めて一緒に確認するなど、何か書き方はあるかと思うのですが、本質的にはやはり学術会議の皆さんの方で思ったことができたかどうかを確認していただくというのがスタンスかなというのが2点目です。

もう一つは、そうしたスタンスであるということをもう少し最初の方の位置付けのところで明確に書いておいた方がいいのではないかなということです。具体的な書き方についてはまた

この後のすり合わせということになるんだと思いますが、この間の政策討議の位置付けとして、そういうスタンスでやってきたということをしっかり頭の部分に書き加えるということを考えてはどうかと思いました。

私からは以上です。

○ ありがとうございます。いかがですか。今幾つかやっぱり修正すべき点というのが見えてきたと思いますので、それに基づいてもう一度ちょっとこの議題を考えさせていただきたいと思います。

時間も過ぎてしまって申し訳ないですけども、大変有益な御意見を頂きまして、ありがとうございました。

それでは、本日の議論を踏まえて、関係資料を適宜修正いたします。次回政策討議において更に議論を深めたいというふうに思います。

議事概要に関して、非公開部分に関するC S T I議員の皆様の御発言部分については、それぞれ御確認を頂いた上で発言者を伏した形で約1か月後に公表させていただきます。

それでは、いずれにしましても、日程や詳細については追って事務局からお知らせいたしますので、どうぞよろしく願いいたします。ありがとうございました。

午前11時36分 閉会